

# CT colonography による大腸癌の術前深達度診断

## 研究対象:

国立がん研究センター中央病院にて、2011 年 8 月以降 2014 年までに、大腸がん手術を行う患者さんで、術前に CT colonography を行った方々の診療録を対象としています。大腸がんにおける CT colonography の診断能を評価するための情報収集を試みます。

## 研究の概要:

近年の大腸がんの治療方針としては、内視鏡的切除や開腹手術、腹腔鏡下手術など、複数の選択肢があります。それらは、大腸がんの術前深達度診断をもとに、どの治療方法を選択するか治療戦略が決められています。大腸がんにおける術前深達度診断の検査としては、CT、大腸内視鏡検査や注腸検査、MRI が一般的に用いられてきました。

CT は、大腸がんの手術前の日常臨床として実施されています。CT 技術は近年進歩しており、multi-detector row CT (MDCT)により、scan の高速化、画像解像度が向上しました。マルチスライス CT の優れた空間分解能およびコンピューター支援検出といったさらなる技術の進歩により、国立がん研究センター中央病院では現在、CT colonography が大腸画像診断法として臨床応用されています。CT colonography の診断画像は、客観性・再現性があり、造影検査における血流情報の三次元可視化が可能です。

本研究では、大腸がんの術前深達度診断のさらなる向上のために、CT colonography を用いて術前深達度診断を行い、その精度を判定します。

## 研究の意義:

CT colonography を行うことで、通常の MDCT に付加した情報が得られ、術前深達度診断の精度が向上することが期待されます。術前深達度診断の精度が増せば、内視鏡的摘除術、腹腔鏡下手術、開腹手術、のどれを選択するのか、がん治療の手段の最適化に繋がります。

結果として必要十分な治療を行うことができ、個別化医療ならびに医療経済への貢献が期待できます。

## 目的:

本研究では、大腸がんの術前深達度診断のさらなる向上のために、CT colonography を用いて術前深達度診断を行い、その精度を判定することを目的としています。将来的には、この研究

データの結果が大腸がんの診療に携わる医師や患者さんに広く利用され、より効率的な検査を受けられるようになると考えております。

**方法:**

国立がん研究センター中央病院にて、2011年8月以降2014年までに、大腸がん手術を行う患者さんで、術前にCT colonographyを行った患者さんを対象としています。術前診断などの臨床情報は、患者さんの診療録より、必要な情報を収集します。情報収集作業に当たる人員は、医師をはじめとする医療知識のある研究者です。

対象は約250人です。更に研究途中で登録数の増加が必要な場合には、適宜追加します。

**個人情報保護に関する配慮:**

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は、研究の過程で匿名化を行い、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

**照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:**

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 大腸外科 志田大

TEL:03-3542-2511 FAX:03-3542-3815